

令和3年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

<h3>1 一人一人の児童生徒の尊重</h3>	<h3>2 友達への思いやり</h3>	<h3>3 道徳・心の教育の充実</h3>
<p>学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。</p>	<p>子どもは、友達となかよくしていると思いますか。</p>	<p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)</p>
<p>【学校から】①昨年度比で、[4]の割合だけ見ると、保護者、教職員ともに7~8%低くなっているが、[3][4]を合わせた割合は高く、昨年度とほぼ変わらない。一人一人を大切にしたい指導や対応については、今年度は江原中校区小中一貫教育の取組で自尊感情を高めることに力を入れた。その一環として、人権集会では「人と比べるのではなく、過去の自分と今の自分を比べてみる」「みんないいところを持って、生まれてきた」という内容の詩や絵本で、自分の良さを再発見するという取組を行った。道徳の授業で「個性の伸長」をテーマに授業を行った。日常では、学年に応じて友達の良いところや等を取り組んでいる。②昨年度比で[4]の割合が、保護者のみ8%低くなっているが、児童、教職員は、ともに割合が高くなっている。今年度もコロナ禍で、遊びやコミュニケーションを図るような活動に制限があり、仲間づくりが難しい面もあった。しかし、日常生活での観察、毎月のアンケート等、児童の笑顔把握に努め、児童が友達となかよく関わられるよう配慮してきた。児童会企画の「やさしさの木」には、友達の良いところをふれ、うれしかったことや感謝の気持ち等を紹介し、思いやりの心を全校に広げている。また、今年度から月に1回、朝の時間に「心スキルタイム」と称し、学校生活でのいろいろな場面について話し合う時間を設け、よりよい友達関係を築けるようになっている。③昨年度とほぼ変わらない割合であった。今年度は、7月の授業参観で道徳や人権学習の授業を公開することができた。また、学期始めには、昨年同様、コロナ関連の人権学習に取り組んだ。保護者へは、道徳授業の学習内容や児童の感想等、授業の様子を学校より、学年、学級通信等で伝えてきた。児童は、挨拶運動、落ち葉拾いボランティア、朝の交通指導の方へお礼の手紙を書いて届けること等に進んで取り組み、学校教育全体を通して、道徳教育が推進されている。</p>		

②確かな学力を育む教育の推進

<h3>4 意欲的な学習態度</h3>	<h3>5 授業力向上</h3>	<h3>6 ICT活用</h3>
<p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<p>子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。</p>
<p>【学校から】④児童の「4」と「3」を合わせた評価が昨年と比較して横ばいで90%、保護者の「4」と「3」を合わせた評価も横ばい93%であった。コロナ禍のオンライン学習も含めて継続した学びにつながっていると考え、「2」と「1」を合わせた評価は児童、保護者とも10%より少ないが、授業や家庭学習の在り方の工夫をさらに継続して行っていく。⑤児童の「4」と「3」を合わせた評価が93%、保護者の「4」と「3」を合わせた評価が96%、教師の「4」「3」を合わせた評価が100%であった。コロナ禍で通常の学びが難しい点もあるが、校内研修の「主体的・対話的で深い学びのある授業づくり」のテーマのもと、タブレット端末などによる学び合いを通して、今後も全員が分かる授業づくりを努力していきたい。⑥今年度は「お子さんはタブレット端末を活用して学習していると思いますか」に変わっている。児童の情報活用能力が求められることが分かる。今年度の数値を見ると、4の数値で児童が63%に対し、保護者は52%であることから、保護者は、「もっと活用できるのではないか」と考えていることが分かる。保護者が見えるタブレット端末活用は「家庭学習」が主であることから、家庭でタブレット端末を活用する課題を出していく等、学校でどのように活用しているかを保護者に知らせていく。</p>		

③健やかな体を育む教育の推進

<h3>7 健康づくり</h3>
<p>子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p>
<p>【学校から】⑦今年度、保護者・児童ともに「3」「4」が80%を超え、昨年度同様、食事・運動・休養に心掛けて取り組んでいるという意識が高いことが分かる。教職員は「3」「4」が昨年度と同様であったが、「4」が昨年度より5%ほど減っている。今年度もコロナ禍の中、オンライン授業や時差登校があり、運動量の確保ができなかったり、生活リズムが崩れたりしたことが要因の一つであると考えられる。さまざまな制限のある中で、十分な取り組みができなかったという思いが評価が減ったことの原因につながったと考えられる。</p>

①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

<h3>8 児童生徒理解</h3>	<h3>9 いじめや問題への対応</h3>
<p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていると思いますか。</p>	<p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>
<p>【学校から】⑧児童の「3」「4」の割合が全体でも93%（保護者95%）に達している。ただし、「2」「1」の割合も7%あり、学校はそれを真摯に受け止める必要がある。コロナ禍で児童の活動の場が制限された生活も残っている影響もあると思われる。今後も授業や学校・学級の活動の中で子どもが主体的に活躍し、認められる場をさらに作り、児童の自尊感情を高め、保護者にもさらに学級通信等で積極的に子どものよさを伝えるよう努めていきたい。⑨いじめや問題行動に対する児童及び保護者の「3」「4」の評価は、97%、92%であった。前年度と比べると、児童に関しては同数値であったが、保護者に関しては3%上がっている。これまでの学校側の取り組みを肯定的に捉えられていることが伺える。しかし、3%の児童、8%の保護者が、いじめや問題行動への学校側の取組に満足していないことを真摯に受け止める必要がある。いじめを許さない学級集団づくりを心がけるとともに、いじめや問題行動の解決に向け、迅速で丁寧な対応を行っていかねばならない。</p>	

②特別支援教育の推進

<h3>10 学校の支援体制</h3>	<h3>11 共生社会を担う人材の育成</h3>
<p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>	<p>「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。</p>
<p>【学校から】⑩「3」「4」の割合が、保護者94%、教職員100%となっており、個に応じたきめ細やかな支援や組織としての支援体制が充実していると考えられる。しかし昨年比で「1」「2」と不十分と感じている保護者は5%と昨年度と変わりはない。依然として不十分と感じている保護者がいることから、保護者のニーズに応じた支援体制の充実を心がけていきたい。⑪今年度からの実施項目「共生社会を担う人材の育成」については、「3」「4」の割合が保護者94%、教職員100%、児童95%となっており、交流及び共同学習の実施が相互理解の促進につながっていると全体的には考えられる。しかし、保護者の6%、児童の5%が相互理解の促進につながっていないと感じているため、さらなる、啓発が必要と考える。</p>	

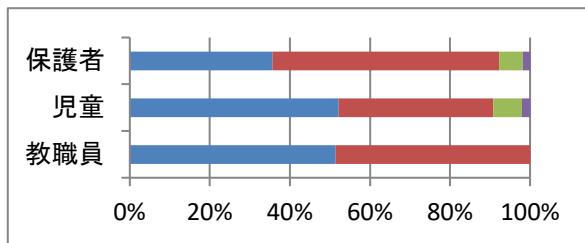
①子どもたちの身近な安全対策の充実

<h3>12 安全と事故防止</h3>	<h3>13 施設・設備の安全管理</h3>
<p>学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。</p>
<p>【学校から】⑫昨年と比べ、保護者と教職員の「4」の割合が低くなっている。これは、安全教育が児童に浸透していないことと表れていないかと考える。より子どもたちに自分のことと考えられるよう指導を進めていく必要がある。</p>	<p>【学校から】⑬昨年と比べ、保護者と児童の「4」の割合が低くなっている。これは、建物の老朽化をはじめ、安全に対して危機感を感じている表れではないかと考える。今後もより一層安全点検を強化し、事故や事件を想定しながら未然に防げるようにしていきたい。</p>

②最適な学習環境の整備

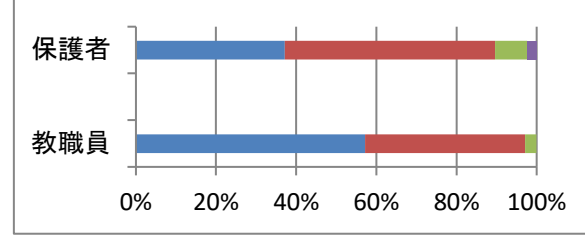
14 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



15 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

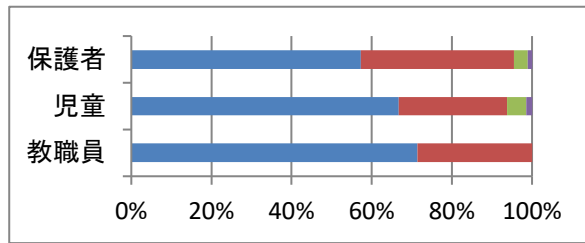


【学校から】⑭教職員、児童、保護者ともに、「3」「4」の割合が91%~100%と、昨年度に引き続き高い評価となっている。わかりやすい教育方針が浸透し、目標達成に向けた具体的な取組が展開され、その様子、成果、課題のきめ細かな周知や共有化に努めた結果と考える。オンラインを活用した効果的な情報発信もさらに工夫していきたい。⑮「3」「4」の割合が、保護者89%、教職員97%となっている。「1」「2」で不十分と感じている保護者は10%と昨年度と変わりはない。教職員も「2」が3%である。コロナ禍の影響で家庭や地域と連携協力して行われていた地域の行事や学校支援ボランティアの活動がほとんど実施できていないのが原因の一つだと考えられる。一昨年度までは行事や活動を通じて、地域の方と子どもたちのつながりができ、活動中やその後の登下校時の挨拶などのやりとりができていた。来年度の地域の行事や学校支援ボランティア活動の実施の有無に関わらず、学校で子どもが活動する姿や思いなどを発信して何らかの形でつながる場を作っていくように心がけたい。

本校の教育

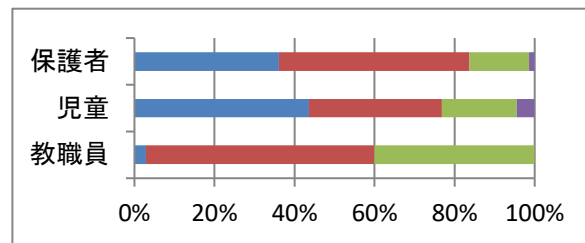
16 学校生活

子どもは、楽しく学校生活ができていますか。



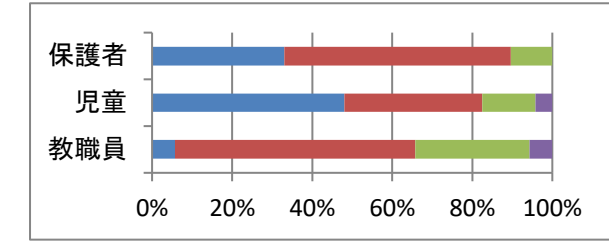
17 早寝・早起き・朝ごはん

子どもは、「早寝・早起き・朝ごはん」ができていますか。



18 あいさつ

子どもは、あいさつができていますか。



【学校から】⑯保護者・児童・教職員すべて「3」「4」の割合が94%~100%に達している。昨年度と比較しても大きく変化はしていない。多くの児童・保護者が、安心して楽しく学校生活を送っていると実感できていると考えられる。ただし、「2」「1」の割合が保護者5%、児童6%であった。日々の教育実践や児童とのふれあいや会話、毎月のなかよしアンケートなどでその理由や実態をしっかりと把握し、対応していくことが大切である。学級や学校に自分の居場所があり、学校生活に意義を感じ、学校に行くことが楽しみと子どもたちが答えることができるよう保護者と連携を深めながら取り組んでいきたい。⑰児童、職員の「3」「4」の評価が他の項目より低い。7の健康づくりの評価も高いとは言えない。基本的な生活習慣の定着のために、家庭と連携した健康教育のさらなる充実を図っていく必要がある。⑱児童のあいさつに対する「3」「4」の評価は82%で、前年度とほぼ同数値であった。また、保護者の「3」「4」の評価は90%で同数値であった。一方で、教職員の本年度の「3」「4」の評価は66%で、あいさつに関しては十分とはいえないと捉えていることが伺える。児童・保護者と教職員のポイントの差を縮めるためにも、教職員があいさつの励行を継続して行うとともに、児童に対しても目的をしっかりと考えてあいさつをしようとする自覚や意識を高める取組を行っていく必要がある。

来年度の具体的な取り組みについて

- 児童と保護者、教職員も早寝・早起き・朝ごはんが十分ではないと回答している割合が多く、情報機器の使い方・付き合い方とともに本校の大きな課題の一つと捉えている。基本的な生活習慣の形成のために今後も学校保健委員会や早寝早起きがんばり週間などを通して継続した取組を行っていく。
- あいさつについても十分とは言えない。家庭・学校全体や地域での「自分からあいさつ」の推進をさらに図り、あいさつの心地よさを実感することができるよう、生活安全委員会や企画委員会などの児童会を中心に取組を行っていく。
- 今年度はコロナ禍2年目に入り、児童が地域の方と密接な関わりをする機会がやはり少なかった。その結果、児童理解、いじめへの対応、地域連携などでやや不十分と答えている児童、保護者がいることを真摯に受け止めなければならない。地域の方とオンラインでのふれあいの機会を増やすなどの方法をさらに工夫していきたい。日常生活でも教職員と児童とのふれあいや話す時間を確保するために日課表をさらに工夫し、時間的な余裕も作っていききたい。保護者にも学校の様子を学校だよりや学級通信等で積極的な働きかけを行っていく。
- 安全教育に関する項目で評価が低かった。児童に危機意識をもたせるとともに、教職員や地域の方と登下校を見守り、安全指導を推進していく。
- 学校教育活動の様々な場面で、教職員全体で情報を共有しながら児童理解に努めていく。コロナ禍にあり、対面での懇談会等ができていないので、学校での学習の様子や児童の様子等を学校だより、学年、学級通信等、様々な機会をとおして、保護者へ伝えていきたい。

学校関係者評価

- 学校経営目標及び組織の運営に関しては、教職員、児童に教育努力目標が浸透しており、総合的に目標達成されていることは高く評価できる。
- 全教職員が、個々の児童の変化等に敏感に気付き、報告し連携して対応する体制ができています。評価やアンケート結果の少数値にも目を向け、全職員で改善しようとする姿勢が素晴らしい。
- 児童の自尊感情を大切にし、保護者にも積極的に児童のよさを伝えている。コロナ禍であっても、「合い・愛のある教育」を目標に学習活動の継続・充実に向けた教職員の取組への努力を感じる。教職員の尽力に感謝したい。
- 「学校が楽しい・好き」は重要課題であり、引き続き相互理解・啓発推進をお願いしたい。
- ICT教育の効果及び弊害のない活用の仕方を考慮して、今後も「3C~クリエイティビティ、コミュニケーション、コラボレーション」の視点に立った教育の推進をお願いしたい。
- コロナ禍による不安定な状況は継続すると思われる、学校と地域の「顔の見える関係」が以前より希薄になっている。地域で何ができるか、何を必要としているか学校と地域間の情報発信受信についての手立てや連携の工夫が必要である。
- 学校として教職員の働く環境を改善する工夫もなされているが、教職員の心身の健康を第一に人的環境の整備も必要と思われる。